



# 被爆80周年、またノーベル平和賞受賞記念して 平和のための戦争展(4-10日)、新潟と原爆 特別展 (4-15日)、新潟平和の波行動(6-15日)

赤井純治

2025年8月、被爆80周年、“敗戦”80周年にあたる年として、3つの企画として同時に集中開催。

にいがた平和のための戦争展 : 8月4-10日。県民会館展示コーナー。

新潟と原爆 特別展 : 市役所1Fロビー 実行委員会形式(ピースフェスタ 赤井が担当) 8月4-15日。

新潟平和の波行動 実行委員会形式。8月6-15日 (実務は赤井が担当) 15日、終戦戦記念日の街宣

この間、原水爆禁止世界大会 (広島&長崎に赤井、柿内が参加。8月2-10日)

- ・世界大会 SNS zoom (新潟) は平和委員会等で実施。
- ・新潟市・市職労・被爆者団体による、恒例の慰霊・平和祈念式。8月6,9日 (県労連・新婦人が参加)

## 市役所での新潟と原爆 特別展

参加者は4-15日、うち土日祝日は休みで実質8日間で、335人の参加者。対話・説明した人は195人。(昨年は5日間で、430人の参加者)。所用で市役所くる人は非常に少ない。静かな環境で、じっくり見ていただけたこと、人によってはじっくり対話ができる環境だった。チラシは最初裏表のものを作成したが、市の総務課の意見を入れて裏面はカット、表、1面だけに。

今年は事前に総務課との意見交換の場を持った。その場で、もっと柔らかいもの、例えばちひろの絵などどうですかとの要望もあり、ちひろの絵のコーナーを作った。

展示の構成は以下の5区分。1) 80周年、ノーベル賞記念、新潟が4目標都市の一つであること。全市民の緊急疎開。原爆写真。広島長崎が9条を生んだこと。2) 高校生の被爆絵 多数。3) 新潟大学での平和教育。4) ちひろの絵。5) 小林哲夫氏の絵。

市役所での展示での課題・・・

- 1) 基本展示は、一部追加パネルを作ったが、昨年と大幅に変更しない企画であった。
- 2) ファットマンの置く位置が、角で通行場所に対しては隠れるところであった。目立つ場所への移動を訴えたが、管理者の総務課が昨年どおりを主張した。事前に要望を出し、確認させることが必要。
- 3) パネルが「A3で小さい」、との声もあった。
- 4) 市役所本庁舎での展示という意義は大きい。秋葉区役所でもパネル展が実施できた。チラシは市も関わっているの、町内会・自治会の回覧板でも回覧できる。昨年は10ほどの自治会で回覧できた。

被爆80周年、ノーベル平和賞受賞記念  
「新潟と原爆」特別展  
—原爆投下最終四目標の1つの新潟市—

時: 8月4日～15日 (9～11日は除く)  
所: 新潟市役所本館1F ロビー  
ご来場をお待ちしています

【展示内容】

- 長崎に投下された原爆(ファットマン)の  
実物大模型 3m×1.5m(直径):  
被爆者が願いを込めて自作し、  
新潟の平和団体へ移譲されたもの。
- 広島の高校生が描いた被爆絵(被爆  
者と共同してできた作品)  
岩崎ちひろの絵  
なども...
- 戦争中の新潟市  
国民学校(小学校)  
3年生のみた風景  
(小林哲夫 画:  
新潟原爆の様子)
- 原爆玉など、証・資料を展示するとともに  
市民の皆様からの、戦争関連資料等あ  
りましたらお待ちしております。

主催: 「新潟と原爆」特別展 実行委員会 (事務局 025-247-3035)  
ピースフェスタ(公)実行委、秋葉区役所、秋葉区民会、新潟大教員・学生有志などで構成  
実行委員長 赤井純治  
後援: 新潟市

- 5) 「展示案内」も大きな文字、カラーでも目立つようにしたい。
- 6) 小林哲夫さんの絵は好評で、期間中とその後地域で（北区、西区）、これを使っの展示をしたいとの申し入れもあった。この絵は絵本にしたいと思い、具体化が進んでいる。  
(小林さんは 2025 年春、ご逝去)
- 7) ファットマンの羽根部分が折れて、溶接修理した。さらに折れる恐れもあり、運搬に当たっては直接羽根がつかないような台座を作った方がいい。
- 8) 担当者を配置し、人数をカウントした。じっくり対話できた人と区別してカウントした。  
(335 人と 195 人)
- 9) 感想を書いてもらうノートを作り、書いてもらった。
- 10) 実行委員会を機能させたい。ピースフェスが全面的に実働部隊だったが、もっと広げてゆきたい。

今年は、説明担当に新婦人とか、被爆者の会（西澤さん）からも参加を得て、ここは一步前進した。昨年の反省として、「市議会議員全員へチラシを配るべき」があったが実行できなかった。

### 新潟平和の波行動

チラシづくり、と15日の街宣。折り鶴飾りだしが大きな、メイン企画だった。準被爆都市として、この新潟平和の波行動を、位置付け、8月、1月、年2回実施する恒例行事として定着させたい。

準被爆都市とは 広島 長崎に並ぶ都市であり～両市と同じくらいのレベルにすることが目標。市長、メッセージも遜色ないところまで、持ってゆくこと。

年2回、またドアノブへ折り鶴飾り、新潟の特徴をもつ運動として、世界大会等で、全国へも発信してきたので、全国的にも少しは浸透。県内では燕市の取り組みが良かったが、高齢化で今年から断念。

### 被爆 80 周年、新潟市非核平和宣言 20 周年も記念しての「にいがた 平和祈念のつどい」

これに協力を求められて、原爆関連資・試料、展示。新潟市長もこのコーナーをのぞいてくれたので、しっかり説明、核抑止力論は虚構も説明した。

実行委員会の団体は、県原水協、県平和行進実行委員会、平和センター、県原水禁、県生協連、県労連、YWCA 等。



2025 8/6 - 8/15  
新潟平和の波行動 実行委員会ニュース  
2025.6.23

2025年 8月6日～15日  
**新潟平和の波行動**

8/10 新潟全市長への課題命令:新潟の街は空っぽに  
再び広島・長崎の悲劇を繰り返さないため、  
日本が戦争に巻き込まれないようお願い、思いを込め

**折り鶴とメッセージを  
ドアノブに飾って**ください!

いま、本当に戦争が平和か、日本の岐路  
2025年は、被爆80周年  
非核日本をつくるキャンペーンの大運動中です。

◎新潟平和の波行動 街頭宣伝  
8/15 12:15～13:00 古町

関連行事  
○新潟と原爆特別展 新潟市庁舎1Fロビー  
8/4-8/15 (土日祝は開演です)  
○平和のための戦争展 8/4-10 県民会館 展示コーナー  
○署名:日本が核廃止発効に参加を求める大署名、どきどき事件時に区数約1〜3000万署名  
新潟県 任意の写真

☆ 非核平和日本を作る全国キャンペーン中です

## 25 にいがた平和のための戦争展—平和への願いを語り継ぐ

2025年8月4日～10日 新潟県民会館1階展示コーナー

1. 参観者数 7日間で355名（入り口のセンサーでカウント、スタッフの出入りを含む）

特徴・・・戦争展を目当てに来る人が中心。とくに、9・土の講演「満蒙開拓団」の関心が高く、50名が視聴（当日は169名来訪）した。期間中のイベントが少ないため、県民会館ホールへの入場者が、掲示などを見て立ち寄る人は昨年よりも少なかった。

1時間かけて41枚のパネルに見入る人も多い。子供連れの若い夫婦も来た。

2. アンケート 回収は19枚

（10代2名、20代1名、30代2名、50代3名、60代3名、70代以上8名）

1）（10代）この展示を見て、戦争は繰り返してはいけないと思いました。ひいばあちゃんが戦争のけいけん者でした。2年程前にひいばあちゃんから聞いたことから、戦争の本を読んで、こんなむごたらしいことは2度と、くりかえしてはダメだと思いました。

2）（20代）偶然通りかかって拝見しました。高校、大学と理系で歴史は中学までしか学んでこなかったので、初めて知ることも多かったです。紹介されている本を読んで、戦争を考えるきっかけにしたいと思いました。

3）（30代）NHKニュースでこの展示会を知りました。身近な新潟県内での戦時中の様子を写真で見ることが出来、貴重な経験が出来ました。

4）（50代）この展示会は、NHKテレビの紹介で知りました。長岡の空襲について展示してあるかと思いました。そもそも太平洋戦争とは何か、なぜ起こったか？子供たちが読んでも分かり易い構成で、素晴らしいと思います。

5）（50代）夏になると戦争を扱うテレビが多くなり、その時は「戦争は怖いな、嫌だな」と思いますが、またすぐ忘れてしまいます。家に帰って、家族や周りの人に伝えたいです。

6）（60代）4年前に新潟市に転居してきました。これまで、知らないことも学ばせていただきました。憲法第9条を大切にしていかなければと思います。参院選の際、強く思いました。

7）（70代以上）私の父は「特攻隊」の生き残りです。今年101才で亡くなりました。母の父は昭和16年に亡くなりましたが、「この戦争への道は日本は負ける」と言っていました。



## 8 / 9 講演：「満蒙開拓団」 国策移民と我が一家の足跡

須田一彦（1940年一家5人で渡満 45年小学3年で敗戦 吉林省隆川開拓団）



### 1. 講演要旨

1) 「満州国」はどうやって建国されたか：日露戦争で南満州の権益をロシアから確保。関東軍を配置。1931年9月18日、柳条湖事件（軍の謀略）。32年3月1日、満州国建国宣言（黒龍、吉林、遼寧）。満蒙は日本の生命線（ソ連への防波堤、食料・物資の調達地、農村からの移民先）。37年7月7日、日中戦争（盧溝橋事件）、20年間で「100万戸、500万人」移民計画。須田一彦一家も40年12月、渡満。

2) 「満蒙開拓団」（国策移民）の実態：最終（45年5月）までに、18万5千人。新潟県は全国5位で65開拓団。「幸せ」だった日本人。現地住民の「既墾地」を強制買収。中国人「満州に足を踏み入れた日本人は全て加害者」

3) 敗戦／開拓団の結末。45年5月、大本営が関東軍の南下（満州の3／4放棄）決定。8月10日、関東軍と満鉄職員が南下、鉄道を破壊し建物放火破壊。清和開拓団（北・中蒲原、刈羽高柳）、入植は39年、810名（生存帰国50人、帰国後生存20人）。

現地人の土地を取り上げなかった五福堂開拓団は500名全員帰国。五福堂新潟村移民団は、ほとんどが未墾の土地に入植し、一部の既墾地については、現地住民がそのまま耕作を続けることを認め、団長堀忠雄は現地住民たちとの間に良好な関係を築いた。

### 2. 講演アンケート 回収は13枚

1) 夫の父も、2回目、終戦近くに行ったとき（沼垂駅で見送り）、シベリアで病死しました。国からは何の連絡もなく、届けをして遺族年金を受け取りました。

2) とくに印象に残ったのは、清和開拓団の悲劇（ほぼ全滅）と五福堂開拓団（全員帰還）の運命の差でした。「国と国は敵対しても、人と人は理解し合える」という言葉が心に残ります。

3) 国策で送り込まれた満蒙開拓団の様子がわかりました。体験者のお話は、心にしみました。

4) 両親がどのような思いで満州へ行ったか知りたくて参加しました。満州に渡ってすぐ終戦になり最後の興安丸で帰国しました。そのとき私は1才でした。

5) 私も8才の時、台湾から引き揚げてきました。辛いこと苦しいこと沢山ありました。

6) 学校で教わらないこと、知りたかったことがわかりました。多くの人に知って欲しいです。

7) 満州開拓の歴史的経緯と意義を知りました。ソ連国境開拓団の明暗も知りました。

# ◆「2025 じょうえつ平和のための戦争展」の報告◆

## ■パネル展示■

- 開催日時 11月8日(土)～15日(土) 8:30～22:00 (最終15日は8:30～17:00)
- 開催会場 直江津学びの交流館 1階 共有スペース
- 参観者 延べ200名
- テーマ 「戦時下の暮らし・新聞報道」 パネル：A2版 28枚

## ■講演会■

- 開催日時 11月15日(土) 14:00～16:30
- 開催会場 直江津学びの交流館 2階 A・B会議室
- 参観者 40名
- テーマ 「戦時下の抵抗と現在——まつろわぬ文学者たちからの励まし——」
- 講師 片岡 豊さん(元作新学院大学教授・日本近現代文学)

## ●実行委員会構成団体

上越九条の会、上越民主商工会、上越市平和委員会、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟上越支部、国民救援会上越支部、新日本婦人の会上越支部、年金者組合上越支部、上越地区労働組合総連合

## ●会議の開催

- ・第1回実行委員会(6月9日)  
2024年度の総括、2025年度の役員体制・開催について
- ・第2回実行委員会(7月1日)  
2024年度の会計決算確定、2025年度の役員体制・企画内容について
- ・第3回実行委員会(8月5日)  
2025年度企画内容の検討、収支予算計画、今後の日程
- ・第4回実行委員会(9月9日)  
個人カンパ依頼文郵送・配布作業、企画内容の再検討、予算計画、準備品等の検討
- ・第5回実行委員会(10月7日)  
案内チラシ仕分作業、企画内容の再検討、予算計画、準備品等の検討
- ・第6回実行委員会(11月4日)  
資料集の製本作業、企画内容の最終確認、予算計画、準備品等の最終確認
- ・第7回実行委員会(12月16日)  
企画内容の結果と総括、アンケート結果の分析、次年度に向けた検討

## ●「パネル展示」のアンケート結果より

当時の新聞がよく残っていましたね。戦争は絶対やらないと思いました。

地元の戦時下の暮らしについて知る機会があまりなかったためとても勉強になった。

拡大コピーとはいえ、実物は初めて見ました。当時がしのべれます。

当時の「上越新聞」「高田新聞」などの資料について、読みやすいように現代語訳などの工夫、解説がされていればより良いと思う。

新聞記事が照明の関係で、暗くなっていて読みづらかった。旧字体なので、若い人には（自分も）分からない字があったのではないか。

●「講演会」のアンケート結果より

戦争時の文学、抵抗の文学論を聞いたのは初めて。刺激になり、また自分の課題ができた。

時間が足りない。じっくりとシリーズで聞きたかった。文学を今回のような視点から話され興味深かった。

文学を通して反戦で闘った人たちがいて、興味深かった。

●「展示会場」の風景写真



## 第16回「ながおか平和のための戦争展」 実施報告

「ながおか平和のための戦争展」実行委員会

事務局長 菊崎 威

- 1、日時 2025年8月29日（金）～9月1日（月）
- 2、会場 長岡市アオーレ長岡（市民交流ホールホワイエ・交流ホールA）
- 3、内容
  - ① パネル展示
  - ② DVD上映（「わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯」）
  - ③ 講演（黒井秋夫さん「PTSDの日本兵家族会・寄り添う市民の会がめざすこと」）
  - ④ 座談会（「みんなで語ろう「戦争と平和」」）
- 4、主催 「ながおか平和のための戦争展」実行委員会
- 5、後援 長岡市 長岡市教育委員会 ながおか医療生活協同組合 長岡新聞社 新潟日報社  
朝日新聞新潟総局 毎日新聞新潟支局 BSN新潟放送 NST新潟総合テレビ  
TeNYテレビ新潟 UX新潟テレビ21 NCT FMながおか80.7
- 6、延べ来場者数 約220余名
- 7、実施に至るまでの取り組み
  - ①実行委員会（実行委員12名）
    - 第1回（3/4）情勢論議、スローガンなどについてフリートーク（黒井さんの名前が挙がる）
    - 第2回（3/24）テーマ・パネル・講演会・王番田争議・竹橋事件について
    - 第3回（4/24）テーマ・講演会（黒井さん、笠原十九司さん、平田真義さん）
    - 第4回（5/13）テーマ確定、講演会・映画確定、後援確認、チラシ
    - 第5回（5/26）講演タイトル、長岡パネル（王番田争議・竹橋）、広報、文芸作品案内
    - 第6回（6/9）講演タイトル確定、後援一部確定、チラシ内容確定、座談会、会計（予算）
    - 第7回（6/30）王番田争議パネル、広報宣伝、募金・文芸作品募集、県パネル一次
    - 第8回（7/22）県パネル二次選定、沖縄「平和の詩」、会場、募金、座談会、開会式
    - 第9回（8/4）挨拶案内パネル、県パネル確定、「若者よ」、文芸作品、座談会、アンケート
    - 第10回（8/19）パネル等展示物確認、座談会、会場準備、人員配置
    - 第11回（8/25）長岡パネル確定、文芸作品発表者、座談会、パネル等作成準備作業
  - ②広報宣伝
    - ・案内チラシは10000枚印刷。赤旗折込（市内3回、市外2回）計5969枚  
学校・公共施設・民主団体に約4000枚配布。
    - ・報道関係では長岡新聞と新潟日報に案内記事が出る。実施記事は長岡新聞。
- 8、開催期間中について
  - ①設営準備及び撤収等
    - ・戦災資料館資料は前日に借用。その他展示資料等は前日に中越労連事務所にて整理。
    - ・当日8時半より展示会場設営開始。実行委員以外6人の助力にて、ほぼ3時間で作業終了。
    - ・撤収は最終日16時より開始。実行委員以外5人の助力により1時間で無事終了。

- ・受付は新婦人に依頼（3人）。実行委員も含めて、午前午後二人ずつで対応。

## ②開会式

- ・参加者は例年以上の32人参加。
- ・オープニングは長岡空襲紙芝居（今井和江さん）。高評価。
- ・昨年に引き続き文芸作品応募者の作品への思いを発表（代読）してもらった。

## ③DVD上映会、講演会および座談会

- ・DVD上映会「わが青春つきるとも一伊藤千代子の生涯」（55人参加）
- ・講演会：黒井秋夫さん「PTSDの日本兵家族会・寄り添う市民の会がめざすこと」（39人）  
報道されたビデオ上映が多く、もっと本人の声が聞きたかった。  
黒井さんの覚悟に衝撃を受けた方が多くいた。
- ・座談会「みんなで語ろう戦争と平和」（43人参加。含表町小6年生29人校長・担任）  
表町小6年生の平和学習の成果を発表してもらい、それを受けて、平和とは何？平和のためにできること、などを4つのグループに分かれて話し合った。

## ④展示パネル等

- ・戦災資料館資料（寄せ書き、千人針、焼夷弾、体験画（写真含む））は、ほぼ昨年同様。
- ・長岡パネルは、新たに王番田争議を作成。他は昨年同様。より一層の充実が求められる。
- ・県パネルは、今年は33枚。中国侵略とアジア太平洋戦争、従軍慰安婦、新潟県と戦争、東京裁判、治安維持法関連、平和憲法等を展示。
- ・「若者よ」（丸岡稔作詞・酒井光男作曲）「おばあちゃんの歌」（城間一步輝、沖繩慰霊祭）

## ⑤文芸作品

- ・今年は16名の応募（詩2、短歌10、俳句4、川柳2）。パネル4枚に短冊風にして展示。

## ⑥募金

- ・募金は振込等で総額17万円余がよせられた。

## 10、来場者感想 アンケート回収43（10～20代4 30～40代6 50～60代14 70以上14）

- ・被害だけでなく加害の歴史に驚いた。そうした歴史を多くの人に知る機会だ。
- ・長岡と日本全国の情報を展示しており、学びが深まった。なくてはならないイベントだ。
- ・国は恥と思うとすぐ隠す。真実を明らかにしてこそその民主主義だ。
- ・自分は幸せであることを気づかせてもらった。怖さもあり目を背けていた。来てよかった。
- ・前より太平洋戦争の実態が分かった。つながった。
- ・生活綴り方事件、満蒙開拓団について、長岡での証言記録等も残してもらいたい。
- ・日章旗、寄せ書き、どれほどの人々の思いを背負い、戦争に向かわねばならなかったのか。

### <DVD上映「わが青春つきるとも一伊藤千代子の生涯」の感想>

- ・異常な空気に覆われていた戦前戦中の日本で、信念を失わずに生きていた人の人生を知ることができてよかった。
- ・こうした時代があって今があることをしみじみと感じた。
- ・知らなかったことをたくさん知ることができた。
- ・「よい世の中を作りたい」は、あらかた実現した。でも、本当はこれからだ。その一人でありたい。
- ・自由を求め、平等を求める心の強さに感動した。

### <黒井秋夫さんの講演の感想>

- ・勇気をもってこの問題に声を上げたことに敬意を表す。
- ・白旗の会を立ち上げ世界に活動することが未来を作るのに大切だ。
- ・戦争という狂気の中で加害を強いられることによる複雑なトラウマ反応について、社会全体で理解を深めていきたい。戦闘を拒否する姿勢を諸外国へ強くアピールしていくことは、実はとても強い効力を持ちうるのではないか。

### 11、若干の総括

- ・開会式での参加者の顔ぶれが新しかった。紙芝居の影響がある。
- ・DVD 上映と講演会講師については早めに決まり、チラシ作成も早めにできた。
- ・座談会に表町小6年生 29 人の参加は画期的であったが、対応は適切であったか、また交流が深められたかについても課題を残した。しかし、小学校では高評価であった。
- ・上映会、講演会の参加者が予想したほどは多くなく、良い内容であっただけに残念であった。事前の声掛けなど宣伝をすべきであった。
- ・アンケートの回収は前年より多く、また若い世代の回答や内容もよいものがあり、戦争展の存在価値を高めた。
- ・展示パネルについては、新たに王番田争議パネルを作成したが、さらに長岡パネルを充実させる必要がある。長岡にもあった捕虜収容所への関心が高かった。
- ・県パネルについては、事前のチェックを丁寧にする必要がある。より資料的価値のあるものを選択していく必要がある。昨年同様、日中戦争や従軍慰安婦への関心が高かった。治安維持法関連のパネルを4枚展示したが、関心は高かった。
- ・募金は今年も多くの方からよせられ、戦争展への大きな期待を感じた。
- ・広報宣伝については、今年は市内全中学校にチラシを持参し、案内をした。小・中高校生への一層の広報が必要だ。また、市政だよりに載せることや新聞折込回数を増やすことなど、一層の努力が必要だ。



## 秋葉区平和のための戦争展～原爆の絵画展～ 実施報告

新潟県民主医療機関連合会

一般社団法人 新潟メディカルプラン

小林 義人

6、会場・日時 ひなた薬局地域交流スペース 2025年8月25日(月)～9月26日(土)

2、内容 秋葉区平和のための戦争展 被爆80年企画展の展示  
ーその想いはツルにのってー サダコと折鶴

4、主催 秋葉区平和のための戦争展実行委員会

5、後援 新潟市、新潟市教育委員会

6、延べ来場者数 約320名

7、実施に至るまでの取り組み

### ①実行委員会等

#### \*7/9 第1回実行委員会

展示の内容を検討し広島平和記念資料館が保有している「サダコと折鶴」のポスター展示で決定する。

#### \*7/15 第2回実行委員会

「サダコと折鶴」のポスターの他、学習セット(リトルボーイの原寸大のポスター、熱線で焼かれた瓦など)と一緒に展示することにする。後援は、新潟市、新潟市教育委員会へ依頼。

#### \*7/19 広島平和記念資料館へ展示物の依頼をする。

#### \*8/20 広島平和記念資料館より展示物が届く

#### \*8/23 展示作業を行う

#### \*9/26 午後より撤去作業を行う。

#### \*10/1 第3回実行委員会

反省会を行う。課題や今後について討議する。

### ②広報宣伝

\*案内チラシは、下越病院、健康友の会新津総支部、かえつクリニック、かえつ歯科、みのり薬局、ひなた薬局、各コミセン、ウオロク新津店、にて配布。

\*ポスターは下越病院、健康友の会新津総支部、かえつクリニック、かえつ歯科、みのり薬局、ひなた薬局、ウオロク新津店、地域学園、などにて掲示。

\*新潟メディカルプランのホームページに案内を出した。

\*エフエム新津の情報提供へアナウンスをした。

8、来場者の感想(抜粋)

\*この企画展示を行って下さりありがとうございました。サダコさんのような子供が二度と出ないように子供達に平和を伝えられる大人になりたいです。

\*サダコさんの生涯や闘病の様子、折鶴を千羽折り続け、サダコさんの願いもよくわかりました。同級生の悲しみと思いを終結して「原爆の子の像」が作られて、子供達の勇気にも感動

しました。とてもすばらしい企画展でした。

- \*「切に生きる」という事という言葉とは真逆の現実を見せつけられ衝撃を受けました。
- \*広島へは遠くて行けないけど近くで見られて良かったです。この戦争展が小、中学校に巡回されるといいですね。
- \*生きたいという貞子さんの切実な思いが胸を締め付けました。同級生が折鶴の像を建立する為の活動も素晴らしかった。
- \*中学の英語の教科書で折鶴のサダコさんのことを習い、修学旅行で広島原爆資料館で見たことを思い出しました。時間が過ぎてその頃より未来は良くなっているはずなのに、今も戦争が起り続けていることに憤りを感じます。
- \*来年の加茂の「戦争展」に展示をしたい。(大勢の人に知ってもらいたい)
- \*世界では、戦争が無くなりません。日本でも軍事費が増えるばかり。多くの人に、この戦争展を見てもらいたい。『かけがえのない命を守る』『核兵器はもちろん戦闘機もいらない』そのようなことを皆で実現したい。
- \*今年もこの戦争展で被爆、戦争について考えるチャンス頂きました。何も出来ないままですが、忘れないこと、話すこと、見たり聴いたりすることはずっと続けて行きます。

### 9、総括

今回の展示は、「被爆 80 年」という思いから企画を考えた。広島平和記念資料館からの協力により素晴らしい展示をすることが出来た。サダコさんの生涯や、原子爆弾による広島の惨状、「原爆の子の像」が完成するまでの経緯などの他に、リトルボーイの原寸大のポスター、熱線で焼かれた瓦など貴重な資料も展示することで来場者へ対してより、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを伝えることが出来たのではないかと思います。「被爆 80 年企画展」としてとても良かったのではないかと思います。今後もっとより多くの方に見て頂けるように企画やアピールをしていきたい。



**秋葉区平和のための戦争展**  
**被爆 80 年企画展**

その想いはツルビのつて  
**サダコと折り鶴**

入場無料

2025年 8月25日(月) - 9月26日(金)

①(月)・②(火) 9:00~19:00 ③(水) 9:00~18:00  
④(木)・⑤(金) 9:00~17:00 ⑥(土) 9:00~12:00  
⑦(日) 休 ⑧9/9(火) PMと 9/19(金)と 9/20(土)は休

開催場所 ひなた薬局地域交流スペース  
新潟市秋葉区新津東町 3-4-8 (おまつクリニック隣)

「サダコと折り鶴」のポスター展示他、広島に投下された原子爆弾「リトルボーイ」実物大ポスターや熱線により溶けた瓦（実際に触れることができます）なども展示します。是非お越しください。



主催：秋葉区平和のための戦争展実行委員会  
協力：広島平和記念資料館・にいがた平和のための戦争展実行委員会  
後援：新潟市・新潟市教育委員会  
お問い合わせ：秋葉区平和のための戦争展実行委員会・小林まで lin 090-7217-9795

# [2025年] 平和のための「原爆と戦争展」 実施報告

加茂・九条の会 (押見 隆)

1.日時 2025年8月2日(土)～8月10日(日)

2.会場 加茂ショッピングパーク・メリア

3.主催 加茂・九条の会(共催、後援…なし)

4.取り組みの経過

7/12 九条の会例会にて展示内容決定

8/2 AM 設営

8/2 PM ～ 8/10 AM 展示

8/9 PM4撤去

5.展示内容

- ・広島長崎「原爆と人間」
- ・広島元町高校生高校生の描いた広島原爆の絵
- ・戦時下の各種資料(木製プロペラ、軍需工場看板、軍人装備・軍服、日章旗、書籍他)
- ・沖縄高校生の詩
- ・広島小学生の「平和への誓い」
- ・広島県知事 式典挨拶

6.広報宣伝

- ・案内チラシは、九条の会会員へ配布、赤旗新聞折り込み配布。その他 SNS
- ・ポスターは会場(メリア)入り口、市内数カ所に掲示。
- ・新潟日報、三條新聞に予定、取材記事依頼・・・それぞれ掲載される。

7.結果

- ・入場者 約 200 名『名簿記入者 106 名、市内は 78 名(74%)、市外 28 名(26%)』

[アンケート結果](原文尊重)(回答者 49 人)

① 本展を知ったきっかけは?(複数回答あり)

- ・チラシ、ポスター 7 名(14%)
- ・家族、友人 4 名(8%)
- ・メリアに来たついでに 23 名(47%)
- ・新聞で見た 8 名(16%)
- ・九条の会の会員で知った 3 名(6%)
- ・その他 4 名(8%)

② 何回位見ている?

- ・初めて 32 名
- ・毎回 3 名
- ・何回か 13 名

③ 加茂市が「非核平和都市宣言」であることを知っている?

- ・知っている 4 名
- ・知らない 44 名

④ 来場者の感想、意見等(原文のまま)

(36 名…… 20 代以下 6 名、30～50 代 7 名、60 代以上 17 名)

- ・良い企画。若い方にみていただきたいです。伝えていかなければなりませんね。(40 代)
- ・加茂市は非核平和都市宣言をしたが、市長は何の取り組みもやらない。宣言しても意味がない。もっと外部に宣伝すべき。自衛隊を無くし、災害救助隊にすべきだ。(50 代)
- ・TV や伝え聞いていた話を実際に見ると、子どもの頃母から聞いた戦争体験を思い出し涙がにじんでくる。
- ・幼い頃から母親に聞かされて育っているので心が痛みます。(70 代)
- ・恐ろしい惨状に心がふるえます。広島は 800g のウランの爆発で多くの人命が奪われ



ました。また、起きるか心配する。世界の指導者の心あるリーダーシップを求めます。

- 用意いたし書面観察いたし候。被害のみでなく、加害の資料も多く展示願いたし。(70代)
- 原爆の悲惨を後世に語り継ぐ活動としてこれからも続けて行って欲しいです。(60代)
- 毎回「戦争展」開催を楽しみにしています。被爆体験者の高齢化、死亡により被爆体験の風化が言われて久しいです。継続は力！ですね。今後も活動を続けて下さい。(70代)
- 何回見ても苦しい思いでいっぱいです。思わず目頭が熱くなります。ありがとうございました。• 身近に怖いことがありビックリ。
- 戦争は絶対してはならない。平和が一番です。声をあげて、平和を訴えましょう。(70代)
- 声をかけて頂き、見ることが出来てありがとうございました。(50代)
- 近代史を知らない人が多い中で、こういった機会をつくって頂き有難いです。
- このような資料に興味をもったのは最近だけど実際に様々な写真、絵、その他資料を見て、改めて核兵器の悲惨さを感じられた。これからもこの悲劇を忘れることなく、語り継がれて欲しいと思った。(中3)
- もっと戦争の話を若い人や子どもたちに伝えて欲しい。今は若い世代に気を遣いすぎている。この世にも辛いこと、不幸が多くさんあることを知ってほしい。ガザやウクライナにも関心をもって。(60代)
- 多くの人に見てもらいたい。良い展示です。各国が無くすればよい原爆(70代)
- 「戦争をさせてはいけない」自分にとってできることを考えてみようと思います。(40代)
- 「はだしのゲン」を映画で見たことがあるので。とても勉強になりました。展示してある絵は高校生が描いたと聞いておどろきました。(20歳)
- リアルな絵で、心にとっても残りました。もっと沢山の方に見て頂きたい内容だし、説明もしてくれ、より深まりました。(30代 東京より来場)
- 広島で一度見たことはあったが、改めて見て戦争の恐ろしさ、無情さを痛感しました。未来永劫世界平和を願います。(30代 東京より来場)
- 戦争は二度とあってはならない。世界平和を願っています。
- 戦争はあぶない。もう、しちゃいけないこと。キケン。戦争って悲惨。
- 初めてですがとてもよかった。• 原爆と戦争について知ることができました。
- これからも様々な人に戦争を伝えていく必要があると思いました。(10代)
- 戦争を知らない世代へ知ってもらえるよう、引き続きこういう場をつくるのが大事。
- ここに来て「もう戦争が起こらないよう」と強く感じました。これからも全世界に平和があるように祈っていきたいと思っています。平和が一人々々にありますように(60代)
- 広島、長崎の原爆の会館を見てきたが、すさまじい、見ていられないようだった。
- 戦争は市民が犠牲になることを分かって欲しい。子どもの頃、図書館でしか見た事なかったので、絵や写真を見て涙が出てしまいました。もっと色んな方に知ってもらいたいです。伝える人達も若い人に世代交代もいいかも・・・(40代)
- たしかに戦争はいつの時代も悲惨ですが、日本の歴史認識がないのは、いつもやったことは言わずやられたことのみを言う。(70代)

- 世の中の空気を読むのではなく、みんなで世界平和、戦争のない世界を作りたいものです。
- 五番町の会場は遠かった。近くなって良かった（80代）

9.総括

- 会場は加茂駅前のショッピングパーク・メリアにしたが、空きスペースの関係で2Fと面積効良く、書籍関係を多く並べられた為、座ってじっくり閲覧してもらえた。
- 入場者は1F 入口付近に比べ、通行者数の関係で減となった。
- 入場者は昨年同様来店のついでが最も多く、また初めての来場者が多く（約65%）開催目的を果たす結果に。
- 市外からの入場者は3割弱で若干減（新聞報道が遅れた為かー）
- 名簿記入は個人情報の関係で「あくまでも自由」としたが、例年並みの記入数であった。
- 今年も原爆写真・絵を見たいので、必ず続けてくれという人が居られた。
- 加茂市の非核平和都市宣言を知らない人が絶対多数。行政の怠慢と我々の運動不足!!
- 会場の確保（集まりやすい場所）と会場費は今後の課題として続く。



## 2025年 戦争と平和を語りつぐつどい パート28 (報告)

戦争と平和を語りつぐつどい実行委員会

原水爆禁止三条協議会

新日本婦人の会三条支部

- ・開催日時 8月31日(日) 午前10時～午後5時
- ・会場 三条東公民館
- ・入場者数 約110余名
- ・アンケート 回答18通

1 今回初めて被爆体験伝承者等派遣事業に申し込み、広島から被爆体験伝承者を派遣していただいた。例年の被爆体験・戦争体験の講演とはひと味違う大変貴重な経験となった。同時に例年通り、原爆パネル展も開催し、来場していただいた方々に見てもらうことができ

2 展示パネルは、被団協・日本原水協のパネルに加え、広島平和記念史料館から同館と広島市立基町高等学校が共同制作した「原爆の絵」をについて、データの提供を受け許可を得て掲示した。原爆の絵=63作品をA2パネルに複製したものと被団協30枚・原水協は5枚に減らして展示した。

3 三条市には、従来から被団協・日本原水協のパネルを栄庁舎、下田庁舎に掲示してもらっていた。今年は新たに、新婦人の方々の協力により、すまいるランドとまちやま(市立図書館)にも展示することができた。さらに市内の三つの中学校(9中学校で三校輪番)に被爆体験伝承者の講演に併せた「原爆の絵」の掲示は4年目となった。

4 被爆体験を聞く会への参加者は、予想を超えるたくさんの方々に来ていただけた。正確な数を把握しきれなかったが、資料の数と会場の椅子の数からみて、百名を超える大盛況のうちに終えた。講演も会場に飾ってある「原爆の絵」ともリンクして原爆の惨状をリアルに想像できたのは良かった。



5 今回は、短時間で多数の方々にアンケートを書いてもらえるほどに会場内の余裕もなく、途中でパネル展示を会場内で作り直したりしたことで、時間的に無理だった。次年度は廊下にも机を用意するなどアンケート回収に工夫を凝らしたい。

## 6 感想文より

①講演の感想をお聞かせください。

A こんなにも悲惨なことを人間がする。どこの国にも投下してはならない。

B 「ワタシゴト」、渡すこと、自分ごと、確かに知ったことを次世代に伝えていくこと。この事実を自分のこととして受け止めること。本当にそうですね。とても詳しく教えていただきよかったです。

C もう少しその後のことが聞きたい。

D 「建物疎開」という言葉を初めて聞いた。

E ワタシゴトが語り継ぐことだとわかりました。「はだしのゲン」の映像が再現されたようで、やさしい中にリアルな語り口で感心しました。

F わかりやすくとてもよかったです。特に原爆投下の絵（スライド）は、はっと思いました。広島原爆記念館の原爆の様子より迫力があり、よかったです。

G 言葉で語られた内容には、写真や書物から感じるよりもさらに真実味があり、身にしみるものがありました。小西さんがおっしゃるように私も対話がすべての解決につながると思います。国レベルの問題であろうが、家族間のことであろうが、お互いに話をするということから始めなければならないと思いました。

H 絵や写真で原爆の恐ろしさがとてもよくわかりました。一人一人に焦点を当てて、具体的に語ることが、人の心に迫って来るのだと思いました。

I ピカドンの恐ろしさ・ひどさを改めて教えてもらいました。広島の方の話をも直接聞いたのは初めて。よかったです。

J 現実の被爆の恐ろしさが伝わってくる。

②パネル展はいかがでしたか。

A むごい姿に絶句です。まさに地獄。 B 上手に描けていた。

C 配置が工夫されていた。（1日で終わるのが惜しい）

D 初めて見ました。原爆の様子が描かれているパネルよかったです。小中学校の児童生徒にも見てもらいたいです。本当に平和を願いたいと思います。78歳女

E 絵がとてもよく伝わってきた。

F 核兵器とは、その場にいたら自分はどうなっていたらうか。熱い思いや放射能をあびたり、黒い雨に打たれたり。本当に廃絶の活動をしていかなければならないと思いました。

③その他何でも感想をお願いします。

A 今年戦後80年なので、いろんなところでいろんな講演会や朗読があった。でも、用があって今日しか参加できなかった。

B 戦後80年、平和な国になっていることに感謝しています。78歳男

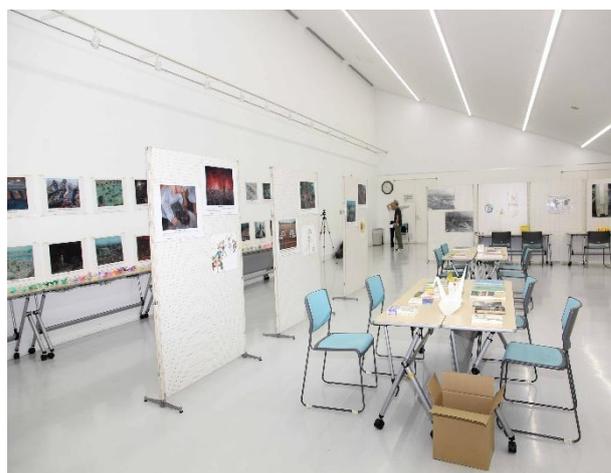
C 核兵器を用いて、抑止力とするのは間違っていると思います。核兵器禁止条約は世界

中で批准・採択するべき条約だと思えます。実験もすべきではない。

D 広島原爆はウランを800グラム使用。柏崎原発は1353kw一基一年間燃焼すると、広島原爆の1700発分のウランを使用する。恐ろしい。

E 歌がよかった。

7 講演の後に用意した歌詞集で「原爆を許すまじ」「青い空は」などを会場全体で合唱した。



## 編 集 後 記

2月8日、衆院選の投開票でした。「自民が戦後最多の316議席を確保、中道は49議席に激減、維新は36、国民民主は28、参政党は15、みらいは11に。一方。共産党は4、れいわは1、社民党はゼロ。日本の議会はついに大政翼賛会化した。経済破綻が進む度に、政治が独裁化する道だ。」(慶大名誉教授金子勝のXより)

高市首相は、「国民の皆様から信任をいただいた」と延べ、「憲法改正に向けた挑戦もすすめる」と、9条改憲に言及しました。小泉防衛相は、憲法改定の国民投票を「速やかに実現に向けて動くべきだ」と述べています。

「平和のための戦争展」も今年は正念場です。25年の戦争展は新潟、上越、長岡、秋葉、加茂、三条の6地域で開かれ市民、1740人余が訪れました。

長岡では、4日間の中で座談会「みんなで語

ろう戦争と平和」を企画し、表町小学校の6年生29名が参加しました。また、市内全中学校にチラシを持参しました。新潟では、体験者の須田一彦氏の講演「満蒙開拓団」には50名余が参加し、高い関心を集めました。上越でも、8日間の日程で片岡豊氏の講演「戦時下の抵抗と現在」に40名が参加しました。

秋葉区では、「被爆80年」の企画として広島平和記念資料館から展示物を借り、被爆による広島の惨状、サダコさんの生涯、「原爆の子の像」などが好評でした。加茂では8日間の開催で36名から感想が寄せられました。三条では広島の「被爆体験伝承者等派遣事業」から講師を呼んで、講演会を開きました。さらに、市内の3つの中学校に「原爆の絵」を展示し、4年目となります。